

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300222		
法人名	社会福祉法人 心愛会		
事業所名	ハ一モ二一日和田		
所在地	福島県郡山市日和田町北ノ入51－1		
自己評価作成日	平成29年2月25日	評価結果市町村受理日	平成29年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成29年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所としては、5年を経過し地域との関わりも年々増えてきている。運営推進会議では、会議の中で消防訓練を行い、メンバーの方々にも参加いただきながら評価して頂くとともに、自衛消防操法大会への参加を毎年行い、事業所として第三者からの視点での防災意識を更に深めるよう努めている。又、介護福祉士が従事職員の3分の2を占め、専門性の高いケアを提供できるよう努めている。尚、地域活動としては、認知症サポーター養成講座を事業所や公民館等で行い、地域住民の方々へ認知症に対する理解を深める機会として頂いている。地元のボランティアの方々も月に1回来設いただき、歌を通じ交流を持つ機会としている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 地域との関わりを大切にし町内会の会議や各種行事に参加するなど地域との交流を深めている。また、地域の方の参加を得た芋煮会の開催やボランティアの受け入れ、地域向けの認知症サポーター養成講座を開催するなど地域に根ざした双方向の交流が行われている。

2. 法人研修や職場内外研修など年間計画に沿った研修を通して職員の資質向上を図っている。また、キャリアパス制度を活用し、資格を取得した職員を評価し、意欲をもって働きサービスの質が高められるような職場環境作りを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型施設として地域資源の重要な役割を担っていることを認識しながら、事業所としての理念を作成し、定期の職員会議や施設内研修を通して職員と理念の共有を図っている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を全職員で作成した。その理念を事業所内に掲示し、会議や研修を通して共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設での行事には案内状を配布し地域の方々の参加を促している。また、町内会に入会しており、地域の行事や福島駅伝の応援、文化祭への出展等に積極的に参加することで、当事業所を認知してもらうことが出来ている。又、地元ボランティア団体の方々の月1回の来設により、ご披露場所の提供を行えている。	町内会に加入し会議への出席や一斉清掃、地区文化祭参加を通して交流を持ち、事業所の夏祭りや芋煮会を開催し地域との交流を行っている。また、地区のボランティア(歌・踊り)を受け入れ毎月交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を自事業所や公民館で公開講座を行う事で開催し、地域住民の方々に、より認知症高齢者への対応やその症状への理解を促している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	事業所での生活の様子や評価結果、また今後の事業所の取り組みについて報告を行っている。会議メンバーから戴いた助言を施設運営・サービス向上に活かしている。会議の時に消防訓練を行い、事業所の防災への取り組みを共有して頂く機会としている。	運営推進会議は定期的に開催されている。会議では事業所の現況や利用者状況などを報告し、委員から意見を頂き、それを運営に活かしている。また、委員の参加を得て避難訓練を実施した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、事業所での疑問点等に関して解決に向けてのアドバイスをいただいたり、三者会議で他事業所の意見や市の方直接の意見を頂きながら連携を図っていた。又、月に2回の介護サービス相談員により、個々のお客様に対する取り組みや事業所としての取り組みのご意見やご指導を頂きながら、連携を図っている。	市の担当者とは、事業所の状況報告や相談などを通して協力関係を築くよう努めている。また、介護相談員との三者会議(市・相談員・事業所)で意見交換するなど連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及びすべての職員が、身体拘束をしないケアを目指した取り組みを行っており、法人研修や外部研修の積極的参加への支援を行っている。また事業所内に身体拘束予防委員会を設置し、日々の業務の中で身体拘束が行われていないか検討を行っている。尚、日常的にも職員間でお客様に対する言動・対応について「今の言葉は～ですよね」等の声掛けをする等してお互いが改善を図っている。	身体拘束防止委員会や研修を通して身体拘束について理解を深め、会議やミーティングで確認しながら、玄関の施錠を含め拘束をしないケアに取り組んでいる。また、不適切と思われるケアが見られた際は職員間で注意し合うことが出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は積極的に研修に参加し、職員会議や施設内研修等で教育システムを活用しながら職員の指導に努めている。また日々の業務の中で不適切な行為を発見した場合には、管理者へと報告出来る体制づくりに努めている。又、管理者自身も言動が不適切に繋がりそうな事象が続いた場合は個人に指導をし改善を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際、別事業所(併設している)で成年後見人制度を利用されているお客様がいるが、職員一人一人が深く理解できてはいないと考える。制度に関する研修の機会があまりとれず、今後の課題となる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約終了の際には、状況に応じて居宅事業所の紹介や契約の立会などをご本人家族様と相談しながら行い、今後の生活に不安を残すことがなく前進することが出来るように支援を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の改善点などを気兼ねなく伝えていただけるように施設内に意見箱を設置したり、介護相談員からお客様の相談等を報告頂いている。相談内容に関しては職員会議等で報告するなど周知徹底しケアの改善に努めている。又、年に1回の家族会を通じ、ご家族様からのダイレクトな意見を反映できるよう職員全体で共有している。	日常生活の中で利用者の意見や意向を聞くよう努めている。また、家族からは家族会や運営推進会議、面会時などに意見や要望を聞く機会を設け、出された意見などを運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の声に耳を傾け、出来る限り職員の気づきや発見をサービス改善に活かす事が出来るように努めている。また年に数回本部役員との面談を行い職員が直接意見交換が出来る様な機会作りを行っている。	代表者、管理者は日頃から職員の意見や提案を聞くよう努めており、職員会議でも議題を設け職員の意見等を聞き、出された意見や提案を検討しながら運営に活かしている。また、代表者・管理者による個別面談も年2回実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後も資格を十分に活かせるような労働環境作りをおこなう等、職員が意欲を持って働くことが出来るように努めている。特にキャリアパス(人事評価制度)への促進、給与規定の改定を適宜行う等して、法人全体の働きやすい環境づくりを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、頻回に事業所訪問を行い、職員へのねぎらいの言葉を掛けて下さる。他、事業所の取り組みや個人個人のケアの実力の評価を、上記でも掲げた人事評価制度や自己目標シート、職員面談を通じ、個々人の今後の目標を確認していく機会としている。尚、今後事業所が取り組んでいくべき方針のアドバイスや研修の選定を行う等、積極的な関わりを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者や職員の積極的な研修参加を支援している。外部研修等を通じて交流を行うことで、事業所のサービスの質の向上に活かす事が出来ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様本人が不安に思うことや考えていることが話しやすい関係づくりを心掛けています。またその内容をミーティング等で共有し、安心してサービスを受けて頂くことが出来るように配慮をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様との連絡調整時からサービス開始に至るまで、積極的に家族様の思いに耳を傾け、良好な関係を築くことが出来るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様とご本人のニーズを実態調査時に把握し、そのニーズに応じたサービス内容について、他サービス利用についても検討しながらカンファレンスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や調理、掃除等お客様と一緒に 行っている。職員はお客様に教えていただくという立場で協力を依頼し、良好な関係で共同生活を行うことが出来るように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様とは積極的に連絡を取り合い、介護への負担や不安の状況を確認している。また、施設での行事でお手伝いを頂くなど、ともにご本人を支え合う立場としてご協力頂いている。特に認知症状の変化については、職員一人一人がその症状の変化について面会時、電話対応時に即座に話ができるよう共有できるように口頭や連絡ノート、申し送りシートのツールを使いながらリアルタイムに伝達できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様やご本人との会話の中から、ご本人にとって馴染みのあるものを引き出すよう努めながらコミュニケーションを図っている。又、親戚や知人・友人の面会時に職員も関係性を把握し、より個人のお客様が今までの関係を断ち切らないように、継続的なかわりとしていたける様、キーパーソンへの働きかけ等も行っている。尚、かかりつけの病院受診や地域お祭りへの参加等、これまでの関係を断ち切るこのない支援を心掛けている。	家族や友人・知人の訪問時には居室で気兼ねしないで過ごして頂くよう配慮している。また、家族の協力で墓参りや外食、買い物などに出かけ関係が途切れないよう支援している。併設事業所に通っている知人と馴染みの関係が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関係を把握し、良好な関係作りが出来るように心掛けている。関係がとりにくいお客様の場合には職員が間に入るなどサポートを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もこれまで築いてきた関係を大切にしながら、ご家族様と連絡を取るなどご本人の状況把握に努めている。特に入院されサービス終了となったお客様に関しては時折訪問面会するなど、ご本人・家族様のフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様の希望・意向は日々の関わりの中より情報収集を行い、毎月開催しているミーティングの中で周知徹底を図っている。また、ご本人からの意向確認が困難である場合には家族様に協力頂きながら情報収集を行っている。	日常生活の会話の中から利用者の希望や意向を把握するよう努めている。困難な場合は家族からの情報や日頃の言動や行動、表情などから本人の意向を汲み取りミーティングなどで本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お客様や家族様との日々の会話の中や、近隣の友人から情報を収集し、可能な限りその暮らし方が継続できるように心掛けている。特に家事全般に関するIADLの低下予防に取り組むことでご自身からの意欲的な行動にもつなげるよう促している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員で情報を出し合いながら24時間シートを作成し、お客様の過ごし方に沿ってケアが提供できるように心掛けている。また、毎月ミーティングを開催しお客様の心身状態の情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様・ご本人よりサービスご利用についての意向を確認している。また毎月開催しているミーティングの中でお客様の近況報告と職員の意見を出し合い、より現状に即した計画作成が出来るように心掛けている。	本人・家族の意向を生活の中や面会時に確認し、ミーティングで現況や気づきを確認しながら現状に即した介護計画を作成している。3ヶ月毎の見直しを行っているが、利用者の心身状態変化に応じた見直しと介護計画の変更も実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノート、申し送りシート、介護記録で日々のレクリエーションでの個別的な楽しみへの気づき、リスクなどリアルタイムに職員間で共有し、ニーズやそれに伴うリスクへの対応を随時確認し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マラソンの応援や近くの講演での桜を散歩をしながら見に行く楽しみを作る等している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のヨークベニマルやセブンイレブンへの買い物、文化祭で公民館へご自身で出展した作品を見に行く機会をもつ等楽しみを持ちながら生活をして頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人・家族様の希望を優先し、今までご本人がかかりつけ医とされていた病院への受診をサポートしている。受診の際には施設での状況を情報提供書としてお渡しし、主治医がスムーズに診察が出来るように努めている。	本人・家族の希望する医療機関を受診出来るようサポートしている。通院時は「生活状況報告書」で情報提供し安心して受診できるよう支援しており、受診結果も共有されている。また、24時間オンコールで緊急時の受診体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のケアを通して気付いた情報を、看護師や管理者と共有することで、お客様の状態変化の早期発見することが出来ている。看護師は得た情報をもとに主治医と連携を取りながらスムーズな受診へとつなげることが出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時から主治医の状態説明には同行させていただき、ご本人・家族様の不安軽減に努めるとともに、退院までの経過をスムーズに進めることが出来る様に担当ワーカーとの連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	適宜に、重度化した際どのようなケアを希望されるのかをご本人・家族様と少しずつ話し合っている。また当事業所でも対応できる事・対応が困難であることをその都度説明し家族様にご理解を頂いている。	事業所の看取り指針により、重度化・終末期の支援について説明し理解を得ている。重度化・終末期の対応については主治医、家族、関係者が方針を共有しながら、チーム支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に管理者・看護師より緊急時の対応について医師の助言も間接的に頂きながらの指導を行い、職員がお客様の急変時に適切に対応が出来るように努めている。また、積極的に消防署の訓練に参加しスキルアップに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間を通して災害教育及び訓練を計画し、実施を行っている。また通期の自主防災会に加入させていただき等、災害時の地域との協力体制作りに努めている。	年間防災計画が作成され運営推進会議委員の訓練参加と消防署立ち会いの避難訓練も実施しているが応急処置や心肺蘇生など急変時の対応訓練などが主な訓練となっている。また、非常時用食料品等の準備はされていない。	火災だけでなく、昼夜を問わず地震や風水害などを想定し、職員が実体験できる避難訓練を数多く実施して欲しい。また、地域との協力体制の構築と非常時用備蓄品の準備が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様のプライバシーを重視して排泄介助や入浴時の声かけ等を行っている。また職員会議や施設内研修等で高齢者虐待防止についての勉強会を行い、尊厳ある対応について職員全体で学び合う機会作りを行っている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、入浴、排泄、入室などはプライバシーを損なわない言葉かけや対応に注意している。また、研修会で虐待や身体拘束について学習し、全職員で尊厳ある対応を周知徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の思いを十分にくみ取り配慮するように心掛けながらケアを行っている。衣装やティータイム時のメニュー選択など、日常生活の中でご本人に選択していただく機会作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩、畑仕事などお客様の希望に添った1日の過ごし方を心掛けている。職員の都合で時間を区切ることなくお一人お一人のペースに合わせた時間作りを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣装はご本人の意向で決めていただき、化粧やおしゃれも楽しんで頂けるような取り組みを行っている。また積極的に美容室に出かけ、パーマやカラーなどオシャレを楽しんで頂けるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	職員とお客様が同じテーブルを囲み楽しく食事をしている。畑の野菜と一緒に採ったり、調理の下ごしらえをお手伝い頂いたり調理にも参加頂いている。また、行事食など四季を感じる事が出来る食事提供を心掛けている。	食材の下ごしらえやテーブル拭き、後片づけなど利用者の出来る事に参加して頂き、行事食(外食含む)や季節に応じた食事を作り、共に食卓を囲みながら楽しい食事となるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	以前より飲み物のメニューを増やし、お好みの物が選択出来るよう工夫を行っている。記録により摂取量の確認を行い、著しく不足が見られる場合には医師や看護師の指導を受けながら食事内容に関しての検討を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各食後職員が立ち会いながら口腔ケアを行っている。ご自身が主体的に取り組む事が出来るように、職員はサポートを行うという姿勢で取り組んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄委員会が中心となり、排泄パターンの読み取りを行っている。ご本人に適した案内時間・排泄用品の検討を行っている。出来る限りトイレでの排泄を継続していくことを目標に取り組んでいる。	排泄委員会が中心となり、排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握している。利用者の羞恥心やプライバシーに配慮した声かけやトイレ誘導を行い、出来るだけトイレで排泄が出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人の嗜好に合った飲み物を提供する等水分摂取量のUPに努めている。また毎日全身体操を行い、体を動かす事で腸の蠕動運動を促すなど便秘の予防・改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様の関係性や異性(職員介助等によるもの)への配慮を十分に行いながら、入浴して頂いている。又、菖蒲湯やゆず湯など入浴で四季を感じて頂けるように工夫をしてお楽しみの一つとして頂いている。	利用者の希望に応じた入浴と同性介助に配慮した支援を行っている。入浴を好まない方にはコミュニケーションを大切に、その人に合わせたタイミングで入浴が出来るよう取り組んでいる。季節の菖蒲湯、ゆず湯等も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息に関しては昼食後に畳で休まれる方、椅子でくつろがれる方、そのお客様の習慣に合わせて上手く休息がとれるように努めている。また就寝時間に関しては特に決めておらず、ご本人の希望される時間にお休み頂けるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お客様が内服されていらっしゃる薬の名前・効果については個人ファイルに資料があり、いつでも確認できるようにしてある。また内服薬の変更があった場合には管理者や看護師、医師の指示により職員へ報告・指導を行うなど周知に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の出来る力を毎日の生活の中より把握し、家事や掃除、畑仕事等役割を持って取り組む事が出来るようにサポートを行っている。水分補給時もメニュー表から選んでいただき、本人の選択意欲を高め、ご自身からの意思伝達ができるよう促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お客様の希望に沿って散歩や買い物、ドライブ等に出かけられるよう心掛けている。また四季折々に遠出ドライブを計画し、数回に分けて実施している。現在は職員でのみ対応を行っているが、今後家族様や地域の方々との協力を頂きながら企画・実施していきたいと考えている。	日常生活の中で、利用者の外出などの希望を聞き職員と一緒に買い物や散歩等に出かけている。また、花見や菊人形見学など希望に応じた外出支援と家族の協力を得ながら墓参りや外泊などを実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の判断にもよるため、金銭を所持しご自身で使用されるという方は少ない。但し、事業所にヤクルト販売や花泉パン屋が定期的に来設しており、ご購入される機会を持つようにもしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が自宅や友人に連絡を取りたいと希望される場合は、事務所の電話をご利用頂き自由に連絡を行うことが出来るようにサポートを行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	間接照明を使用する等温かくやさしい雰囲気作りを心掛けている。また、テーブルに庭の花を活けたり、毎月掲示板の掲示物を作りかえる等、施設の中にも四季を感じる事が出来るような環境づくりに努めている。	共用フロアには、鉢植えや観葉植物、メダカの水槽を配置し、落ち着いて過ごせる雰囲気が感じられる。また、廊下等には季節感のある共同作品や行事写真が飾られ、照明に配慮した居心地よい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースではテーブルの配置を工夫し、多人数で賑やかに過ごせる場所や、少人数で静かにくつろげる場所づくりを行い、お客様の気分に合わせて使い分けを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	居室は個室であり、プライベート空間の確保が出来る。また施設内の可能な居室もあり、お客様・家族様のニーズに応じてご利用頂いている。床はフローリングとなっており、備え付けのベッドがあるが、自宅での以前過ごされていた環境を踏まえ、ベッドまたは布団敷きの選択を状態に応じて頂いている。尚、ご自宅より馴染みのタンスや椅子、小物等をお持ちになり、ご本人様にとって過ごしやすい環境作りに努めている。	居室には、テレビ、タンス、椅子、冷蔵庫等が持ち込まれ、壁には家族写真や手芸品が飾られ落ち着いて過ごせる部屋となっており、掃除も行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるように暖簾を設置したり、下駄箱に名前を入れてご自身で靴の出し入れを行っていただく等、出来るだけ主体的に動くことが出来る様な環境づくりに心掛けている。		